

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1. 教育に関する措置	1. 教育に関する措置	1. 教育に関する措置			
(1)入学者の確保	(1)入学者の確保	(1)入学者の確保			
	<志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画>	<志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画>			
【広報活動】 ・中学生が本校の学習内容を体験するイベントを実施するとともに、魅力ある学内施設を整備あるいは中長期的な整備計画を立案することによって、地(知)の拠点としての役割をアピールして入学者の確保に努める。 ・広報活動を継続的に実施するとともに、時流に合った広報用資料の整備に努める。	①各種の広報用ツールを活用して志願者の質の維持及び志願者確保のために本校のPR活動(中学校訪問、学校説明会、高校説明会など)を積極的に推進し、多くの中学生や保護者に工学(技術者)の重要性や魅力を伝える。	①中学校訪問、学校説明会、高校説明会などでの本校のPR活動を積極的に推進し、志願者の質の維持及び志願者確保に努めた(詳細は②以降のとおり)。その結果、受験者数は275名(入試倍率1.7倍)で昨年度(入試倍率1.6倍)よりも14名増加した。	○	【教務主事室】	
	②教務主事室、教務委員、教務主事室・教務委員経験者、勤続年数の長い熟練教員等、佐世保高専の説明・PRに適した人材を動員して、中学校訪問の継続と充実を図る。また、3つ以上の離島で前期に中学校訪問を実施し、合計で200校以上を訪問する。	②長崎県、佐賀県の中学校210校、学習塾3校を訪問した。また、離島中学校訪問で3島(新上五島、壱岐、馬渡)を前期に、対馬を後期に訪問した。	○		
	③学校説明会(本校で2回、地区別に長崎県・佐賀県の8カ所、佐賀市内で有明・久留米高専との合同説明会)及び入試懇談会(中学校進路指導教諭・塾関係者対象)を開催する。特に、大手の学習塾1校以上を個別訪問して受験生に関する情報等を収集する。	③学校説明会9回を開催した。合同説明会は台風接近により中止された。学校説明会の参加者数は804人(生徒数360人、保護者数444人)で昨年度より59人増加した。 また、4回の入試懇談会を開催し、参加者数は中学校教員57人、学習塾講師8人であった。 学習塾1校を個別訪問し、高専進学希望者(中学生、保護者約40人)に学校紹介を行うとともに講師と懇談し情報収集を行った。	○		
	④多数の中学生や保護者に直接高専をPRできる高校説明会への参加を積極的に推進する(参加案内のあった中学校全部に参加する。昨年度実績14校。)	④参加案内のあった15校全ての中学校の高校説明会に参加し、本校のPRを行った。	○		
	⑤佐世保、長崎、諫早、唐津の4箇所で開催している入学試験を継続して実施し、受験者の利便を図るとともに本校の志願者増に努める。	⑤今年度も4箇所で開催した。	○		
	⑥全学科体験方式の一日体験入学を実施する。また、公開講座、小中学校への出前授業及び「おもしろ実験大公開」を実施して本校のPRに努める。	⑥8月20日(土)に全学科体験方式の一日体験入学を実施した。参加者数合計 622人(昨年比+4人)(内訳: 生徒 346人(+1人)、保護者等 276人(+3人))。 公開講座、出前授業、おもしろ実験大公開を実施した。	○		
	⑦昨年度導入されたマークシート方式の入学者選抜学力検査について、各種説明会、中学校訪問、及びホームページ掲載等により志願者への周知を継続的に実施する。また、マークシートによる解答を体験することができるように、一日体験入学の時にマークシート方式でプレテストを実施する。	⑦マークシート方式導入に関して各種説明会、中学校訪問、及びホームページ掲載等により志願者への周知を行った。なお、一日体験入学時のマークシート方式のプレテストは実施せず(プレテスト用マークシートを準備できなかったため)。	△		プレテストを実施できなかったため。
	<女子学生志願者の確保への取組計画>	<女子学生志願者の確保への取組計画>			
⑧女子中学生対象のリーフレット(キラキラ高専ガール、高専女子百科Jr.)を学校説明会等でPRして女子生徒に直接配布するなど、効果的な配布を行う。	⑧リーフレット(キラキラ高専ガール、高専女子百科Jr.)を中学校訪問、高専説明会、一日体験入学、高校説明会等で女子中学生に配布した。	○	【教務主事室】		
<入試広報の実施計画>	<入試広報の実施計画>				
⑨中学生・保護者向けの簡易版本校紹介リーフレットを中学校訪問時等に中学3年生全員に配布して知名度向上を図る。	⑨中学校訪問時に中学3年生全員に配布してもらうとともに、高専説明会等のイベントでも配布した。	○	【教務主事室】		
⑩「高専生から中学生へのメッセージ」のリーフレットを新たに作成し、中学校訪問や学校説明会等で中学生に配布して志願者増に役立てる。	⑩「高専生から中学生へのメッセージ」のリーフレットを新たに作成し、中学校訪問や学校説明会等で中学生に配布して志願者増に役立てた。	○			

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	⑪地方紙・TV等のメディアを活用して学校行事の紹介を積極的に行う。	⑪学校行事開催時に地方紙・TV等のメディアに案内し、多くの行事でメディアに取り上げられた。	○		
	＜適切な入試実施への取組計画＞	＜適切な入試実施への取組計画＞			
【入試の検討】 ・ものづくりに関心と適正を有する学生の確保に向けた適切な入学選抜方法を検討する。	⑫推薦選抜の出願資格等について全高専の状況を調査し、それを基に入学選抜方法の改善について検討する。	⑫推薦選抜の出願資格等について全高専の状況を調査し、それを基に推薦合格者の割合を昨年度までの30%程度から40%程度に増やした。また、1校当たり1学科2名までの推薦枠を廃止した。	○	【教務主事室】	
	⑬アドミッションポリシーに適合する入学者選抜方法がなされているかを継続的に検証する(各種アンケートで検証する)。	⑬平成26年度卒業生アンケートにおいて、約8割以上の学生が本校での教育に満足しており、卒業後の進路に関して9割以上の学生が満足していると回答を得たので、アドミッションポリシーに適合している入学者が多いことを確認できた。	○		
	⑭志願者確保や入学選抜方法、及び女子学生受入れ推進に関する他高専の情報を収集し、本校の取り組みの参考にする。	⑭前年度の九州沖縄地区教務主事会議や合同高専説明会で得られた情報を参考に推薦合格者の割合見直し等の改定を行った。また、今年度も説明会の実施方法や説明資料について情報を得たので来年度以降の活動に反映させる予定である。	○		
(2)教育課程の編成	(2)教育課程の編成	(2)教育課程の編成			
	＜中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置＞	＜中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置＞			
	・魅力ある学科としての検討	・魅力ある学科としての検討			
	【機械工学科】	【機械工学科】			
【教育の独自・活性化】 ・産業構造の変化や技術の高度化、社会・産業・地域ニーズ等を察知し、魅力ある学科への進展を十分に配慮した学修内容やカリキュラムの編成を検討する。 ・第2期中期計画時に検討した学科融合したコース制を継続検討する。 ・「自ら考え、自ら学ぶ」教育への変革として、知識活用型時間や自治活動などを重視し、それらの有効活用を図ることによってグローバル教育へと繋げる。	①メカトロニクス技術の実践的修得のために、平成26年度カリキュラム変更で新たに導入した科目「機械システム設計Ⅱ：メカトロニクス演習(5年次)」について具体的な内容の検討を行い、3年後の開講に向けて引き続き教材機器の準備や講義内容の検討を行う。	①メカトロニクス技術の実践的修得のために、平成26年度カリキュラム変更で新たに導入した科目「機械システム設計Ⅱ：メカトロニクス演習(5年次)」について具体的な内容の検討を行い、3年後の開講に向けて引き続き教材機器の準備や講義内容の検討を行った。平成28年度校長裁量経費により3セットの教材を準備できた。これまでの教材準備も併せ、現在13セットの教材を準備できた。平成29年度に、不足する7セットの教材をさらに整備していく。	○	【機械工学科】	
	【電気電子工学科】	【電気電子工学科】			
	①知識活用教育を利用したPBL教育の更なる改善を図る。これまでの知識活用教育での成果を更に発展継続させ、一年単位の催事ではなく継続して実施可能な内容を目標とする。併せて、各種イベントや出前授業において効果的なプレゼンをおこない、学生の課題解決力やコミュニケーション力の涵養を目指す。	①知識活用教育において、従来の講義形式ではなくPBL教育の一環として、学生自身が主体的に取り組み、教員は学習を支援して、ものづくりの体験に取り組んだ。具体的には低学年の学生に対して、木工工作を実施した。学生はみずから設計、製作した工作物に対して、完成まで粘り強く取り組んだ。 また、学外者向けのイベントである”おもしろ実験”、”公開講座”および”一日体験入学”において、一般来場者に対して、上級生による説明や製作指導を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上に取り組んだ。 以上の結果、ものづくり、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを涵養できた。	○	【電気電子工学科】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	【電子制御工学科】 ①産業構造の変化、技術の進展に対応できる実験・実習のテーマの見直しを行い、ICTを活用した実験、実習を検討し、その設備の導入を行う。また、老朽化施設や設備の更新を働きかけ、安全安心な教育環境の構築を目指す。また、情報セキュリティ教育の重要性が増しているため、これに対応するため、セキュリティ教育の内容と、カリキュラム構成を検討する。	【電子制御工学科】 ①マイコンを用いた実験実習の実施内容を見直し、時代に即した新マイコンを導入した。老朽化施設や設備の更新については、校長裁量経費を申請し、予算の範囲内で、一部のデバイスを購入している。従来のH8マイコンの実験を規模の大きなSHマイコンを用いた実習に変え、ホストコンピュータから制御できるArduinoを用いた実験も行っている。老朽化施設の更新については、施設整備委員会や設備整備マスタープランなどで働きかけを行った。また、情報セキュリティの教育については、5年次に関連した講義を取り入れており、次年度からのカリキュラム構成も検討した。	○	【電子制御工学科】	
	【物質工学科】 ①カリキュラム変更の年度進行完了となるので、このことをふまえて地域のニーズに対応できるよう、学科名称・カリキュラムの内容等の変更を含めた教育内容充実のための検討を行う。	【物質工学科】 ①カリキュラム変更の年度進行完了となり、この移行はスムーズに完了した。また、学科名称変更について検討を行い、地域中学校(教員・生徒)に対し「物質工学科」という名称について、学科カリキュラム内容がイメージできるか・名称変更の是非等についてアンケート調査を行ったが、その結果およびその他の状況を鑑み、名称変更については見送ることとした。また、高専4.0イニシアティブへの学校全体としての取り組みの中で、新たに名称変更の議案もあったが、検討過程で別観点からの取り組みをメインに行う方針となったため、改めて学科名称変更については見送りとなった。	○	【物質工学科】	
	【教務主事室】 ①学力差拡大に対応する落ちこぼれ・伸びこぼし対策としての習熟度別授業・早朝自習・放課後補習などを継続する。 ②セキュリティ実習拠点校として、セキュリティに強い人材の量的拡大を図るために各学科で教育課程の編成を検討する。	【教務主事室】 ①学力差拡大に対応する落ちこぼれ・伸びこぼし対策として、今年度、数学科は習熟が遅いと思われる1年生に対して、放課後補習を実施した。早朝自習に関しては本年も継続して実施した。 ②新入生全員に対して入学後の前期に情報セキュリティに関する知識を獲得するために、従来各学科で独自に行っていた情報教育を再編し、共通講座「情報セキュリティ基礎」を平成29年度より新設する。	○	【教務主事室】	
	<専攻科の充実を図る計画> ①開設した「産業数理技術者育成プログラム」が円滑に運営できるように、入学者の確保、PR活動を行うと共に、カリキュラム内容の充実を検討する。 ②「情報セキュリティ」分野における教育システムの改善を図る。	<専攻科の充実を図る計画> ①「産業数理技術者育成プログラム」の開設に関して、地域への周知(地域連携の推移活動)を目的として、6月10日に『産業数理フォーラム』を開催した。総参加者82名のなかで実施できた。 ・平成29年度入学者対象の入学試験を通して2名の合格者を出している。 ・平成30年度入学試験向けのPRポスターを作成し、全国の高専へ募集要項とともに送付した。また、近郊の高専には、訪問してPRを行った。 ②・専攻科1年生対象の情報セキュリティに関する講演会を2月8日に、西九州テクノコンソーシアム(NTC)と連携して開催した。 ・『長崎県サイバーセキュリティ研究会』の設立に参画したことで、長崎県立大学の情報セキュリティ学科および長崎大学の担当教員との連携(教員間交流、教育コンテンツの展開)を図ることが可能になった。これにより、本校の情報セキュリティ関連の教育システムの充実に向けた仕組みを構築できた。 ・九州大学サイバーセキュリティセンターの教員との交流を通して、情報セキュリティに関する教育連携がとれる体制が整備できた。	○	【専攻科】	
	③「特例適用専攻科」の申請内容の一部変更に伴い、それに対応した円滑な申請を進める。	③円滑に学位申請(24名)を行い、学位が授与された。	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
	<学習到達度試験の活用計画>	<学習到達度試験の活用計画>			
	①学習到達度試験(「数学」、「物理」)を受験させ、その結果を詳細に分析し、該当科目の授業構成や授業方法の改善のための資料として活用する。また、分析結果を一般科目と専門学科間で共有し、専門学科における授業の改善や効率化に役立てる。	①毎年度実施している3年生対象の全国学習到達度試験(数学・物理)では教員会議において試験結果を分析し全教員で共有してきた。また、専門科目も含め関連する授業の授業構成や授業方法の改善に向け活用してきた。さらに、高専機構から1、2年生対象(7クラス)のCBT(到達度試験トライアル、数学・物理・化学)の依頼を受けて、試験的に実施した。	○	【教務主事室】 【一般科目】	
	<英語力向上に関する取組計画>	<英語力向上に関する取組計画>			
	①平成26年度より実施した、4年生全員のTOEIC IPテストを本年度も実施し、学生が各自の英語力を把握するとともに、その伸長を支援する。	①平成26年度より実施している4年生全員のTOEIC IPテストを本年度も実施した。これにより、学生が各自の英語力を把握するとともに、その伸長の支援として、各自の点数の向上に向けた指導を授業内で行った。	○	【教務主事室】	
	①前年度から導入した実験テキストの一部英語化について、4・5年生に対するレベルアップを実施する。【物質工学科】	①実験テキスト内の英語表記箇所・方法を学年進行に伴い増やしていった。それにより実験器具等に対する英語の意識付けに役立った。	○	【物質工学科】	
	①専攻科生が行うプレゼンテーションにおいては、英語による表記を原則とする指導を進める。(一般科目)	①特別研究発表会(2月2日開催)においては、発表用パワーポイントは英語による表記を義務づけ、実施した。	○	【専攻科】	
	<社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画>	<社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画>			
	①自然体験活動としての「地域活動ゼミ」を引き続き開講する。また、実施時期や受講人数について再検討する。	①自然体験活動としての「地域活動ゼミ」を開講し、また、時期や受講人数について再検討した。	○	【教務主事室】	
	①学生会による自治活動を活性化し、体育祭・文化祭等、各種学校行事の運営、「花壇に季節の花を植える」、「日宇駅の自転車整理」、「烏帽子岳遠足の誘導」、「新入生オリエンテーション」など、校内外の環境美化・保全、ボランティア活動、地域社会との交流等に、学生たちが積極的かつ主体的に取り組むようにする。	①本年度は天候の関係で「歓迎遠足」は実施できなかったが、その他の行事については学生会を中心として予定通り実施してきた。また、本年は学校近隣清掃・献血呼びかけ等回数的にはこれまで以上にボランティア活動が活発に行われ、社会奉仕体験への取り組みは深まった。平成29年度から学生会ボランティア委員会は、地区ロータリークラブの支援を受け、「インターアクトクラブ」となり、その活動の幅を広げることになっている。	○	【学生主事室】	
	②学生会執行部と教員(学生主事室)および各種委員会(体育祭実行委員会、文化祭実行委員会等)との意見交換会を定期的に開催し、お互いが対等な立場で学校を良くするためのディスカッションを行う。その際、学生の意見、企画を尊重し、可能な限り実現できるよう支援する。	②学生会役員と学生主事室教員との定例打ち合わせ会を始め、行事ごとの打ち合わせ会も予定通り開催された。その際は、学生の意見を尊重しつつ、教員がアドバイスを与える体制は整っており、適切に機能している。その結果、各種催しごとにも例年に負けない盛り上がりを見た。	○		
	① 日常の寮生活を通して、寮室内の整理整頓や環境美化、ごみの分別や節電など、環境マネジメントにつながる体験学習を行う。	① ゴみの分別回収を継続中。寮内の冷暖房は、昨年度全寮室に設置が完了したエアコンを用い、電力消費が最小となるエアコンの経済運転を寮生と共に検討し、省エネについて体験的に学習を行った。また、男子寮生の風呂のお湯の供給設備としてエコキュートを導入し、学寮における全ての重油の使用を廃し、二酸化炭素の排出量を削減した。	○	【寮務主事室】	
	②寮生会を中心とし、近隣の幼稚園などに出向いてイベントを実施し、地域の方々との交流を図る。	②寮生会の学生が、2月4日(土)に近隣の大宮幼稚園へ出向き、節分イベントとして豆まきと理科実験を実施した。	○		
	③寮生会を中心とし、高学年の寮生が、食堂を利用して、週に一回、1年生の寮生全員および2年生の希望する寮生に、学習指導を行う。	③毎週火曜日の21:00～22:50に全1年生を、毎週木曜日の21:00～22:50に全2年生を食堂に集め、4、5年生が学習指導を行った。	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
	<p><学生による授業評価の実施></p> <p>①専攻科学生に対して、授業評価アンケートを継続して行う。また「複合型もの創り工学」の「育成する技術者像」および「学習・教育到達目標」に学生の意見を反映するため、専攻科受験生に対してアンケートを継続して実施する。</p>	<p><学生による授業評価の実施></p> <p>①専攻科学生に対して、授業アンケートを継続して行った。また「複合型もの創り工学」の「育成する技術者像」および「学習・教育到達目標」に学生の意見を反映するため、専攻科受験生に対してアンケートを継続して実施した。結果は良好で、各項目の認知度は9割を超え、特に反省すべき意見は出なかった。</p>	○	【教育システム 点検・改善委員 長】	
	<p>①学生による授業評価アンケートを継続して実施し、その結果をADDIEモデルのサイクルに活用し授業改善につなげる。また、評価の高い授業の見学会を推進する。</p> <p>②アンケート結果の集計作業の省力化・効率化を図るために、webによる回答について検討する。</p>	<p>①学生による授業アンケートを実施した。また、その結果をADDIEモデルのサイクルに活用し、授業改善を行った。さらに、授業評価の高い授業や関連する科目の授業の見学会を推進した。</p> <p>②授業アンケートの集計作業の効率化を進めるために、Blackboardを利用したWeb回答方式のアンケートを検討したが匿名性が担保できないなどの課題がありすぐに実施するのは難しいとの結論となった。来年度も引き続き集計作業の省力化・効率化を検討することになった。</p>	○	【教務主事室】	
	<p><スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどへの参加></p> <p>①「全国高等学校体育大会」、「全国高等学校ロボットコンテスト」、「全国高等学校プログラミングコンテスト」、「全国高等学校英語プレゼンテーションコンテスト」など機構主催のコンテストへ参加を奨励する。</p>	<p><スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどへの参加></p> <p>①「英語プレゼンテーションコンテスト」への参加は、その予選に必要な結果が残せず参加できないが、その他大会には学生は積極的に参加しており、学校側としてもその活動を奨励してきた。その成果の一つとして、本年度ロボコンに関しては、9年振りに全国大会出場を果たした。</p>	○	【学生主事室】	
	<p>②各種コンテストへの参加に際しては、地区予選の通過、全国上位入賞を目標とし、その達成のために、クラブ活動等の課外活動を支援し、活性化する。</p>	<p>②遠征費・ユニフォーム等必要な物品の購入費、その他主に予算面で生活支援係を中心に課外活動を支援してきた。高専体育大会に関しては、陸上部・男子バスケットボール部、ラグビー部、剣道部、陸上部、水泳部、ソフトテニス部が全国高専大会に駒を進めた。さらにボート部は、10月に開催された岩手国体に選手として参加した。体育系クラブ以外ではサイエンスクラブが長崎県高校代表として、そしてロボコンプロジェクトに関して九州・沖縄地区代表として全国大会に参加するという成果を得た。</p>	○		
	<p>③競技団体等から顧問教員に求められる資格取得にかかる負担については、可能な限り手当とする。</p>	<p>③本事例については、これまで同様に可能な限り手当を行い、資格取得にかかる負担軽減に取り組んだ。具体的には、卓球部・バスケットボール部・ハンドボール部・バレーボール部・バドミントン部・ボート部・サッカー部の顧問に関して、手当を実施した。</p>	○		
	<p>④学生会と話し合い、部活動の活動状況、教職員の負担を勘案しながら、学校規模に相応した適正なクラブ数を検討する。</p>	<p>④クラブ数については、これまでも学生会と話し合いを進め、部員数・活動が十分でないクラブに関しては、同好会への格下げ、さらには廃部等の規則をすでに作成済である。</p>	○		
	<p>⑤課外活動に対して、地域社会、保護者等の支援を得て、専門的な指導ができる外部コーチを積極的に導入し、部活動を充実するとともに顧問負担の軽減に努める。</p>	<p>⑤休日の「クラブ日直」制度は確実に実施されている。また、特任教授、外部コーチの導入はこれまで通り実施しており、部活動を活発にするとともに、顧問負担の削減に努めている。またクラブ顧問会議(2月開催)では、土曜日または日曜日にクラブ休養日を設定することを提案する等、部活動充実ならびに顧問負担軽減の取り組みを継続して検討している。</p>	○		
(3) 優れた教員の確保	(3) 優れた教員の確保	(3) 優れた教員の確保			
	<p><優れた教員の確保></p> <p>①新任教員採用は公募制とし、模擬授業・プレゼンテーションを義務化する。</p>	<p><優れた教員の確保></p> <p>①新任教員採用は全て公募制とし、選考の際には、毎回、模擬授業・プレゼンテーションを実施した。</p>	○	【教務主事室】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	②同等の能力があると認められる場合は、女性教員の採用を優先する。	②公募文にも記載しているとおり同等の能力があると認められる場合は、女性教員の採用を優先するように考慮している。	○		
	③技術士・工学教育士の資格取得も採用条件として考慮する。	③技術士・工学教育士の資格取得も採用条件として考慮した。	○		
	<他機関との教員交流>	<他機関との教員交流>			
	①長岡・豊橋技術科学大学及び他高専との人事交流制度を利用し、1名以上の人事交流を実施する。	①技科大や他高専との人事交流制度を利用して、今年度は、有明高専に1名派遣し、熊本高専から1名を受け入れた。	○	【教務主事室】	
	<女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)>	<女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)>			
	①本校において女性教員志望者のインターンシップを検討する。	①高専機構からの女性教員志望者のインターンシップ調査に受け入れ可能の回答をしたが、実施実績はなかった。	○	【教務主事室】	
	②育児休業を取得しやすい環境づくりの検討を行う。	②今年度は女性教員1名が育児を取得し、1名が同居支援プログラムで熊本高専に派遣中である。	○		
	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、学生支援施設の整備、図書館と情報処理センターを統合した図書・情報センター(仮称)の整備やICT教育環境を充実させるために、情報メディアコミュニケーション棟の計画に、女性教職員に配慮した施設の整備、女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備等を計画し、予算措置された場合に実施する。	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、学生支援施設の整備、図書館と情報処理センターを統合した図書・情報センター(仮称)の整備やICT教育環境を充実させるために、情報メディアコミュニケーション棟の計画に、女性教職員に配慮した施設の整備、女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備等を計画し、引き続き概算要求に向けて計画を行っている。	○	【施設整備委員会】	
	<近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画> <教員FDの取組計画>	<近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画> <教員FDの取組計画>			
【教員の再研修】	①LMSの活用やALに関する教員同士の勉強会を奨励し、その開催が容易にできるような制度をFD委員会で継続して検討する。	①LMSの活用やALに関する教員同士の勉強会を実施した。参加人数は20名であった。また、それらの開催が容易にできるようにFD委員会で検討した。勉強会では、実際にLMSを操作して、授業への効果的な活用方法などを検討した。	○	【教務主事室】	
	②外部講師によるFD講演会を4回以上実施する。	②外部講師によるアクティブラーニングや情報セキュリティ等に関するFD講演会を予定どおり4回実施した。各講演会の出席者数(出席率;公務欠席者を除く)は次のとおりであった。1回目50人(90%)、2回目49人(80%)、3回目45人(83%)、4回目43人(81%)。	○		
【教員研修】	③授業参観を継続し、学生による授業評価アンケートで評価の高い授業の見学会・検討会の実施を検討する。	③授業参観を継続して実施した。また、学生による授業アンケートで評価の高い授業の見学を推進した。	○		
	④各種研修への積極的な参加を促すとともに、外部講習を受けた教員による学内FD研修会の開催を検討する。	④情報セキュリティなどの外部講習を受けた教員による研修会を教職員対象で実施した。また、学内研修会の定期的な実施について検討した。アクティブラーニング関連の研修会にも積極的に参加した。	○		
	⑤教育力向上のために県・市教育委員会と連携し、研修会への積極的な参加を検討する。	⑤教育力向上のために県・市教育委員会と連携し、研究会・研修会へ参加した。	○		
	<教員や教員グループの表彰>	<教員や教員グループの表彰>			
	①学内教職員表彰制度を継続する。	①学内教職員表彰を継続的に実施しており、今年度は1月に表彰状授与式を実施した。	○	【教務主事室】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	<p><国内外の大学等で研究・研修する機会を充実></p> <p>①在外研究員制度や高専間交流等の派遣制度を活用することで、研究・研修の機会を充実と併せて積極的な国際学会への参加を促す。</p>	<p><国内外の大学等で研究・研修する機会を充実></p> <p>①今年度も高専間交流制度を利用し、教員1名を有明工業高等専門学校へ派遣している。また、ISAA T2016(国際砥粒加工学会)、International Hydrogen Conference2016等、併せて12件の国際学会へ参加した。</p>	○	【総務課人事係】	
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム			
<p>【ICT教育環境】</p> <p>・学内に共有スペースとしてのICT教育設備を整備することにより、モデルコアカリキュラムの導入を推進し、教育の質の保証につなげる</p> <p>【エンジニアデザイン教育】</p> <p>エンジニアデザイン教育の推進を図る。</p>	<p><モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画></p> <p>①今年度より導入したモデルコアカリキュラム対応シラバスを管理し、モデルコアカリキュラムへの対応を踏まえつつカリキュラム内容の見直し確認を行う。</p> <p>②PBL・ED・モデルコアなど、教育方法に関する研究集会などに積極的に参加し、教育方法の改善を検討する。また、全国高専教育フォーラムへの参加教員数の増加を促す。</p>	<p><モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画></p> <p>①今年度、試行しているWebシラバスシステムの来年度の本格運用に向けて準備を進めた。専攻科の科目についてモデルコアカリキュラムへの対応を踏まえつつカリキュラム内容の見直しを検討した。</p> <p>②AL(アクティブラーニング)に関する研修会に3名(10月1名、11月2名)、九州沖縄地区教員研究集会に2名、インストラクショナルデザイン研修会に1名の教員が参加し、教員会議等で学内展開を図った。また、教員会議にて全国高専フォーラムへの参加教員数の増加を促して9名が参加した。</p>	○	【教務主事室】	
	<p><アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画></p> <p>①昨年度以上にアクティブラーニングを導入した授業を増やし、学内でのアクティブラーニング型授業の推進を図る。昨年度までに導入されたタブレット端末を利用し、ICTを活用したアクティブラーニングの推進を図る。</p>	<p><アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画></p> <p>①6月に前佐賀県教育委員会副教育長を講師にアクティブラーニングに関するFD講演会を実施した。また、今年度BlackBoard利用率20%以上を目指すことにより、アクティブラーニング型授業の推進を図った。そして、本校独自のBYODのルール作りを行い、導入済のタブレット端末利用も含め、ICTを活用したアクティブラーニングの推進を図った。</p>	○	【教務主事室】	
	<p>②すべての科目においてBlackBoardを利用できるように登録を進める。授業に関してBlackBoardを利用する教員が各学科20%以上となることを目指す。</p>	<p>②全ての科目においてBlackBoardを利用できるように登録を行った。授業に関してBlackBoardを利用する教員が各学科20%以上となることを目指し、アンケートにて30%以上の教員が利用していることを確認した。また、1、2年生(7クラス)を対象にCBT到達度試験を試験的に実施した。</p>	○		
	<p>①昨年度に引き続き、アクティブラーニング型授業の推進と支援を行う。またBYOD(Bring Your Own Device)についての調査を行う。</p>	<p>①・高知高専等の他高専でのBYOD状況の調査を行った。 ・CBT型学習到達度試験トライアルの支援を行った。(10/3～11/30) ・BYODへの本校の取り組みが決定した。</p>	○	【情報処理センター】	
	<p><ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画></p> <p>①Webシラバスにあわせて今年度より導入したルーブリックについて、他の授業のルーブリックを参考にしながら、より理解度を向上させ、内容の見直し、改善を図る。</p>	<p><ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画></p> <p>①今年度より導入したルーブリックについて、各教員の担当授業において内容の見直しを図った。また、他の授業のルーブリックを参考にしながら、より理解度を向上させ、内容の見直し、改善を図った。</p>	○	【教務主事室】	
	<p><ICT活用教材や教育方法の開発、利用法></p> <p>①KOREDAやBlackboardなどICT活用教育システムの効果的な利用法について情報収集を行う。</p>	<p><ICT活用教材や教育方法の開発、利用法></p> <p>①機構本部からのBlackboard関連通達やBlackboardを用いたCBT到達度試験トライアルの運用情報などを通してBlackboard活用に役立つ情報を収集した。またBlackboardを実際に活用している教員に対してアンケート調査を行い、具体的な活用に関する情報を収集した。加えて、Blackboardの利用方法講習会を開催した際にWWWを用いて公開されている活用方法を調査したり、Blackboard公式マニュアルを精査することで有効利用に資する情報の収集を行った。</p>	○	【教務主事室】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
	②Blackboardへの全科目登録を行い、校内におけるBlackboard使用率を向上させる。	②全科目をBlackboardに登録し、各学科・教員にBlackboardの使用を呼びかけるとともに、6月にBlackboardの利用方法講習会を開催し20名が参加した。12月時点の校内使用率調査で全教員の32%が使用していることを確認した。	○		
	③教育をサポートするICT環境(成績・出欠・進路情報など)の整備や活用を継続して行う。	③昨年度に引き続き、成績のICTを利用した提出、出欠管理システム、進路情報システムのデータ更新整備作業を行って、本年度もこれらのシステムを活用した。	○		
	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、学生支援施設の整備、図書館と情報処理センターを統合した図書・情報センター(仮称)の整備やICT教育環境を充実させるために、情報メディアコミュニケーション棟の設置に向けた計画を行う。また、情報セキュリティ人材育成事業に向けた整備を行う。	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、学生支援施設の整備、図書館と情報処理センターを統合した図書・情報センター(仮称)の整備やICT教育環境を充実させるために、情報メディアコミュニケーション棟の設置に向け、引き続き概算要求を行っている。本年度は、情報セキュリティ人材育成事業に向けた情報セキュリティ演習室の改修整備を行った。	○	【施設整備委員会】	
	＜特色ある優れた教育実践や取組計画＞	＜特色ある優れた教育実践や取組計画＞			
	①全国高専教育フォーラムや各種会議等で優れた教育実践例に関する情報を収集して学内への展開を図る。	①全国高専フォーラムに4名の教員を派遣してモデルコア、ICT活用教育を中心に情報収集を行った。その他のアクティブラーニング等の研修にも積極的に参加した。その結果を基にMCC改訂・教育質保証やICT活用教育、アクティブラーニング教育実践例等の情報を学内に展開した。	○	【教務主事室】	
	①実施中の3年生の実験を4年生がサポートする取り組みを更に充実させ、将来指導的立場となることをしっかりと認識させるとともに、実践的対応を経験させる。【物質工学科】	①実験の導入時に4年生が3年生にその日の実験内容・注意すべき点等について、また、実験中も必要に応じて指導を行い、4年生のスキルアップに取り組んだ。更にそのフォローや、4年生自身の実験がおろそかにならないよう、教員側も十分に配慮を行った。これにより4年生の将来の意識付け(指導的立場になるための心構え)につながった。	○	【物質工学科】	
	＜JABEE認定、機関別認証評価への取組計画＞	＜JABEE認定、機関別認証評価への取組計画＞			
	①教育システム点検・改善委員会メンバーを中心として、機関別認証評価対応のためのワーキンググループを立ち上げる。	①教育システム点検・改善委員会メンバーを中心として、機関別認証評価対応のためのワーキンググループを立ち上げた。	○	【教育システム点検・改善委員会】	
	②教育システム点検・改善委員会の前メンバーから引き継ぎを行う。	②教育システム点検・改善委員会の前メンバーから引き継ぎを行った。	○		
	③ワーキンググループ新任者のために勉強する機会を提供する。	③教員を「日本技術者教育認定制度審査講習会」や日工教主催「国際的に通用する技術者教育ワークショップ」等に派遣し、評価に関する勉強の機会を提供した。	○		
	①教育システム点検・改善委員会と連携し、JABEE審査結果を踏まえた教育システムの改善を行う。	①JABEE審査で高い評価を受けた、「学科の枠を超えた授業である総合創造演習」および「少人数を活かした授業」を今年度も継続して実施した。「改善を要する点」として指摘を受けた「技術者像に対する学生の要望への配慮」については、専攻科入学試験時のアンケート内容を、12月の教育システム点検・改善委員会で審議することで反映させた。また、専攻科入学試験時のアンケートから技術者像および学習・教育到達目標の学生への周知が悪くなっていることが分かったため、入学試験の面接時に、技術者像および学習・教育到達目標を理解しているかを確認する項目を新規に追加した。	○	【専攻科】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
<p>【自己点検評価】 ・自己点検・評価委員会と教育システム点検改善委員会が両輪となって学内評価を継続的に行う。</p> <p>【共同教育】 ・地域力やOB・OG力を有効に活用した共同教育の構築を図る。</p>	<自己点検評価への取組計画>	<自己点検評価への取組計画>			
	①平成27年度に受審したJABEE評価において「改善を要する点」として指摘された箇所に関して確認を行う。	①「改善を要する点」として指摘を受けた「技術者像に対する学生の要望への配慮」については、専攻科入学試験時のアンケート内容を、12月の教育システム点検・改善委員会で審議することで反映させた。 また「実験等の複数の学習・教育到達目標を割り当てられた科目の評価」については、日工教共催「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」に参加し、他の大学や高専の状況を調査した。調査結果をもとに教育システム点検・改善委員会で対策を検討した。	○	【自己点検・評価委員会及び教育システム点検・改善委員会】	
	<インターンシップの実施計画>	<インターンシップの実施計画>			
	①4年次のインターンシップは単位化されており、現状で全員参加しているため、これを維持する。	①積極的な参加を促したため、4年生全員がインターンシップに参加した。	○	【教務主事室】	
	①多様な実施形態のインターンシップについて、そのカリキュラム変更が認められたことを受けて、従来より実施している国際交流に加え、地域(佐世保市、大学間)での共同教育などを実践していく。	①佐世保高専、佐世保市、長崎県立大学間で「次世代創業者育成プログラム事業」を本年度、実施した。これにより、地域自治体、企業等を巻き込んだ共同教育が実現できた。	○	【専攻科】	
	<企業人材を活用した共同教育の取組計画>	<企業人材を活用した共同教育の取組計画>			
	①地域共同テクノセンターを窓口として、企業技術者による講演会、フォーラム等により、継続的に技術振興人材育成に関する諸活動を推進する。	①西九州テクノコンソーシアムが主催する地域企業技術セミナーを佐世保工業会との共催により実施した。 本校も構成員である長崎“新生”産学官金連携コンソーシアムが主催する第2回産学官金連携サロンへ参加し、県内産業分野への応用が期待される技術として講演を行った。	○	【地域共同テクノセンター】	
	②長崎県産業振興財団、佐世保市商工物産課、工業技術センター、窯業技術センター、地場産業界と連携し、共同教育を継続する。	②水素エネルギー開発に係る勉強会を西九州テクノコンソーシアムと主催し実施した。また、佐世保工業会が主催する地元企業見学会に参加した。	○		
	①産業界で活躍している技術者や本校OBによる講演会を継続発展させる。	①産業界で活躍している技術者や本校OBによる講演会を継続して実施した。	○	【教務主事室】	
	①専攻科の技術者総合ゼミにおいて、従来より取り組んでいる地域企業等の技術者・経営者・専門家などと協働した教育を継続的に実施していく。	①総授業回数30回のなかで12回(約40%)(昨年度と同レベル)を地域企業経営者や企業技術者等を講師として迎え、授業を実施した。	○	【専攻科】	
<ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画>	<ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画>				
①昨年度に導入された1クラス分のタブレット端末について、実際に授業で使用できるように設定作業を行い、試用しながら、より効率よく運用するための方法について引き続き検討する。	①1クラス分のタブレット端末について、必要なソフトウェアのインストールおよび設定作業を行い使用可能とした。また、効率よく運用するための保管場所や利用方法などについて試用しながら検討を行った。	○	【教務主事室】		
②ICT倫理教育を始めとする情報リテラシー等の初等教育を継続実施する。	②低学年を主として、ICT倫理教育のための情報モラル講習会を開催した。また、昨年までと同様に各学科の情報系科目を通して新生入生に対する情報リテラシー教育を行った。	○			
③KOREDAやBlackboardの効果的な活用に必要な環境整備について検討する。	③情報処理センターと連携して、Blackboard等の活用に必要なLAN環境やBYODについて検討した。そして、情報セキュリティ人材育成事業の一環としてアクティブラーニング室(新ICT室設置)を新たに整備した。	○			
④機構が推進する「情報セキュリティ人材育成事業」に関して、セキュリティ人材育成に資する新ICT室設置について検討を行う。	④セキュリティ人材育成に関する新ICT室設置について学校としてプロジェクトチームを発足させて検討し、設置が完了した。	○			

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	①平成30年度全国高専での一括調達導入予定の校内ネットワークシステムについて、以下の準備作業を行う。 (ア) 本年度予定されているSINET5への移行を順調に行う。	①(ア)6月にSINET5へのアクセス回線切り替えを完了した。(NTT→BBIQ)	○	【情報処理センター】	
	(イ)今年度予定されているネットワーク工事が正式に決定した場合に備え、本校内の設置準備作業を行う。	(イ)LAN配線改修工事に関する概要の図面等を8月に作成した。これを基に工事が完了した。	○		
	②平成27年度導入の教育用電子計算機システムと校内ネットワークシステムが継続的に安定して動作するように維持管理を行う。	②教育用電子計算機システムのファイルサーバのファームウェアのバージョンアップ作業(リース契約内の補償)を9月に実施した。	○		
	<高専の枠を超えた学生の交流活動を促進>	<高専の枠を超えた学生の交流活動を促進>			
	①高専機構からの周知を受けて、交流活動への積極参加を促す。	①高専機構や他高専からの周知を受けて、交流活動への参加を促した。	○	【教務主事室】	
	<長岡・豊橋両技術科学大学との連携・協働した教育改革>	<長岡・豊橋両技術科学大学との連携・協働した教育改革>			
	①テレビ会議システムを活用し、高専・両技科大間の交流を進める。	①GIネットを利用して高専・両技科大間の各種講演会や研修会に積極的に参加した。	○	【教務主事室】	
(5) 学生支援・生活支援等	(5) 学生支援・生活支援等	(5) 学生支援・生活支援等			
	<学生の生活指導及び学生生活活動支援>	<学生の生活指導及び学生生活活動支援>			
	スマートフォン等、情報端末の普及により、現在の学生は、人格が未成熟な段階から、高度情報化社会を生き抜かねばならない。そのため、今まで以上に道徳心や公共心を身につけることが必要になっている。学生が、決められたルールを守り、公私の別を明確にできるようにするためにも、正しい制服着用、言葉遣い等、マナーやエチケットの面からの指導を徹底していく。本校は、高等教育機関という位置づけのため、高等学校等に比べると、生活指導の体制や方法が確立されていない。そのため、他校の取り組みを精査し、その取り組みを参考にして本校教職員のスキルアップを図る。また、生活指導上の問題点について、教職員間で情報共有を図り、統一した基準で学生の生活指導に取り組む。	スマートフォン等、情報端末の取り扱いについてはその危険性を周知し、正しい使用方法を考える機会とすべくネット関係の問題事例を担当される警察関係者の方を招聘し、4月に1～3年生を対象として情報モラル講演会を開催した。また、1～3年生に対しては、各学年前期1回・後期1回の学年集会を計画、実行し、教務主事・学生主事・学生相談室長・キャリア教育支援室長・情報処理センター長の講話をお願いした。その後、各クラス担任教員・学生主事室教員による制服の着こなしについて身なり指導を行った。学年集会に多くの先生方に関係してもらうことで、生活指導の共通理解の形成ができた。他校の取り組みを精査する中で、自転車通学に関して、自転車通学許可者を集めた「講習会」を行っている事例に出会った。これは本校の取り組みを振り返る参考になった。	○	【学生主事室】	
	(学生の生活指導)	(学生の生活指導)			
	1)教職員に対しては以下の取組を行う。	1)教職員に対しては以下の取組を行う。			
	①学生指導や生活サポートの方法等についての知識を深め、実践力を身に付けるために専門家を招いて講演会等を開催する。	①本年度は、地域の活性化を計画する中での、高専学生・大学生の人材育成に取り組まれている講師を招き、12月にFD講演会を開催し、教職員の意識向上を図った。	○	【学生主事室】	
	②本校教職員による指導実践の事例を共有し、統一した基準で学生の生活指導に取り組む体制を整備する。	②教員会議においては、学生主事室関係の指導方針・指導内容を明らかにしてきた。また、1～3年生までの各学年集会においては、担任並びに学生主事室教員が協力し、学生の生活指導(制服の着こなし等)に取り組み、学生指導に対して統一した基準の共通理解を深めた。	○		
	2)学生に対しては以下の取組を行う。	2)学生に対しては以下の取組を行う。			
	①学年集会・校門指導のみならず、授業その他、教育活動の全般を通じて、学生にふさわしい容儀を整えるよう指導する。	①学年集会・校門指導は言うまでもなく、特に衣替えの期間を中心として、日々の学生生活の中で制服の着こなしについての指導を行った。	○	【学生主事室】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	②年2回の交通安全講習会を通じて、車両通学生に対し交通法規遵守等の安全教育を実施する。また、学生会の協力を得て、自転車通学生に対しても交通安全指導を行う。	②本年度6月に、近隣の自動車学校の協力を得て、第1回交通安全講習会を実施した。そして1月に第2回の交通安全講習会を校内において実施した。いずれの場合も、欠席者については補講を実施し、全員が講習会に参加するようにした。今回初めての取り組みとなったが、自転車通学生に関して、警察の方と学生会の共同で安全運転の呼びかけ活動を実施した。	○		
	③新入生を対象に、教職員・級友と親交を深め、本校生にふさわしい学習習慣・生活習慣を身に付けることを目的に「新入生オリエンテーション」を実施する。	③本年度も4月に青少年自然の家を利用して「新入生オリエンテーション」を実施した。アンケート結果から、本校の規則を知り、高専での目標を考えると同時に、教職員・クラスメートとの親交を深める機会となったことが読み取れた。	○		
	④携帯電話、スマートフォン、インターネット等については、外部から招く講師や教職員により、潜在するリスクを学生に周知し、使用上の規制を設けて指導する。	④スマートフォンの使用を始め、ネット上の各種問題について、4月外部より講師を招き、1～3年生を対象にした講演会を実施した。また、授業・集会の中でSNSを始めとするネット上の各種問題について本校情報処理センターの協力を得て指導を加え、携帯電話、スマートフォン、インターネット等の適切な使用方法についての意識を高めた。	○		
	⑤薬物やタバコの有害性を認識させ、学生の心身の健康を守ることを目的として、講演会等を開催する。	⑤2年生に対しては、6月「薬物」について、そして1年生に対しては11月「タバコ」について、それぞれが有する問題点について外部から専門家を招き、講演会を実施し、薬物やタバコの有害性を認識する機会を提供した。	○		
	⑥指導的な立場にある学生のリーダーシップを育成し、当面する諸問題を解決する能力を高めるために「リーダー研修会」を実施する。研修会には専門の外部講師を招き、指導力の育成を図る。	⑥リーダー研修会は11月に実施した。その際、佐世保高専で学び、現在会社を興し活躍されている経営者を招き、リーダーとしての心構えを話していただいた。また、それ以外の活動もディスカッションを中心とした内容で、活発な討議に取り組む中で、参加者の各団体リーダーとしての自覚は深まったと思われる。	○		
	＜メンタルヘルスについての取組計画＞	＜メンタルヘルスについての取組計画＞			
【ユニバーサルデザイン】 ユニバーサルデザイン化の推進を図り、必要な情報がすぐわかる環境を整えることで、学生の生活を支援する。	①2名の臨床心理士に月3回程度お願いしているカウンセリングを継続する。	①2名の臨床心理士に月3回程度お願いしているカウンセリングを継続して実施した。	○	【学生相談室】	
	②状況によっては、担任・保護者・学科などの連携を強化したチームで学生のメンタルヘルスを行う。	②状況によっては、担任・保護者・学科などの連携を強化したチームで学生のメンタルヘルスを行った。	○		
	③教職員の自閉症スペクトラムに対する理解を深めるため、メンタルヘルスや学生相談技法などに関する研修会への積極的な参加を促す。	③教職員の自閉症スペクトラムに対する理解を深めるため、メンタルヘルスや学生相談技法などに関する研修会への積極的な参加を促した結果、3名の若手教員がメンタルヘルス関連の研修会に参加した。	○		
	＜就学支援・生活支援の取組計画＞	＜就学支援・生活支援の取組計画＞			
	①一昨年、本校公式ホームページにおいて開始した障害学生支援体制や相談窓口の公開を引き続き行う。	①一昨年、本校公式ホームページにおいて開始した障害学生支援体制や相談窓口の公開を引き続き行った。	○	【特別支援教育コーディネーター】	
	②年3回、外部の専門家が出席のもと、特別支援教育部会を開催し、支援を要する学生に対する対応を協議する。	②外部の専門家が出席のもと、本年度3回特別支援教育部会を開催し、支援を要する学生に対する対応を協議した。	○		
	③支援を要する学生に対する、外部の専門家によるスキルトレーニングの実践を継続する。	③支援を要する学生に対する、外部の専門家によるスキルトレーニングの実践を継続して行った。	○		
	④支援を要する学生に対する、教育支援員によるサポートを継続して行う。	④支援を要する学生に対する、教育支援員によるサポートを継続して行った。	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
<p>中長期にわたって計画している学内の環境整備計画(キャンパスマスタープランなど)をベースとして、さまざまな分野の分野の予算を申請することで、充実を図っていく。</p> <p>【キャリア教育】 5年間一貫したキャリア教育の実施により、学生のキャリア・デザイン力の向上を図る。</p>	<p style="text-align: center;">＜寄宿舎等の学生支援施設の整備改革＞</p> <p>①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づいて、学生支援施設の整備、図書館の整備、健康科学スポーツセンター(仮称)及び学生寄宿舎の整備を計画するとともに老朽化した教育研究施設の整備を最優先課題とした継続的な予算申請を実施する。本年度は学生寄宿舎の学生支援施設である食堂・厨房の乾式厨房へ整備並びに寮舎A棟の改修事業について予算要求を行う。</p>	<p style="text-align: center;">＜寄宿舎等の学生支援施設の整備改革＞</p> <p>①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づいて、中・長期的には、学生支援施設の整備、図書館の整備、健康科学スポーツセンター(仮称)及び学生寄宿舎の整備を計画するとともに老朽化した教育研究施設の整備を最優先課題とした継続的な予算申請を実施することとしており、本年度は学生寄宿舎の学生支援施設である食堂・厨房の乾式厨房整備並びに寮舎A棟の改修事業の概算要求に向けての要求資料作成等の準備を行った。</p>	○	【施設整備委員会】	
	<p>①引き続き、管理施設部分の効率的な運用と、寮生の共有スペースの有効活用について検討し、実施可能なものについては随時実施していく。</p>	<p>① 管理施設部分にエアコンの集中管理システムを集め、1箇所から学寮内全てのエアコンの冷暖房運転を一元管理できるよう効率化を図ると同時に、運転管理プログラムの業者委託により、より確実な運転が実現できるようになった。また閉寮期間中、寮内の共有スペース(静養室)を有効活用し、帰国できない留学生は、特別に学寮で滞在できるようになった。</p>	○	【寮務主事室】	
	<p style="text-align: center;">＜各種奨学金制度の積極的な活用＞</p> <p>①各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるため、学生課生活支援係において、希望者が適切な情報を取得できるように公募情報を一元化し、継続的に学生の利便性を図る。</p>	<p style="text-align: center;">＜各種奨学金制度の積極的な活用＞</p> <p>①各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるため、支援を希望する学生が適切な情報を取得できるよう、公募情報を一元化して継続的に学生の利便性を図った。</p>	○	【学生課生活支援係】	
	<p>②高等専門学校に進学を希望する中学生へ経済的な事情から進学を断念することがないよう、在学中に進学後の奨学金貸与を予約できる制度について高専説明会等でも説明可能な体制を取る。</p>	<p>②高等専門学校へ進学を希望する中学生が、経済的な事情から進学を断念することがないよう、中学校在学中に進学後の奨学金貸与を予約できる制度について高専説明会等でも説明を行った。</p>	○		
	<p style="text-align: center;">＜キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組も含む)＞</p> <p>①キャリア教育支援室の進路関係資料を整理整頓し、学生が必要な情報をすぐに得られるよう環境を整える。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応える。</p>	<p style="text-align: center;">＜キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組も含む)＞</p> <p>①キャリア教育支援室において、求人票を進路支援システムへ登録するなど進路関係資料の整理を行い、学生が必要な情報をすぐに得られるように環境を整えた。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応えられる様に工夫した。</p>	○	【キャリア教育支援室】	
	<p>②同支援室の存在をWeb上で広報し、利用方法を学生に広く周知する。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応える。</p>	<p>②公式ホームページのキャリア教育支援室のページを学生が見やすいように整理を行うとともに、11月に4年生及び専攻科1年生に対して進路支援システムの説明会を実施した際にホームページの周知を併せて行った。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応えられる様に工夫した。</p>	○		
	<p>③5年間一貫したキャリア・デザイン教育を推進する。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応える。</p>	<p>③1年生の初年次教育、2、3年生のグループ・ワーク、4年生のキャリア関連教育等を通して5年間一貫したキャリア・デザイン教育を推進した。また、専属の教員および事務職員を配置し、学生の要求に応えた。</p>	○		
	<p style="text-align: center;">＜高い就職率を確保するための取組計画＞</p> <p>①各学科で、面接練習、エントリーシート、履歴書などの確認を行い、適切な進路指導を行う。また、卒業生による講話の機会を設けることを推進する。</p>	<p style="text-align: center;">＜高い就職率を確保するための取組計画＞</p> <p>①各学科で、面接練習、エントリーシート、履歴書などの確認を行い、適切な進路指導を行った。また、卒業生による講話の機会を設けることを推進した。</p>	○	【教務主事室】	
	<p>②低学年の学生においても、就職資料を閲覧しやすい環境にし、適切な指導を行ってモチベーションを高める。また、キャリア教育支援室との連携を図る。</p>	<p>②低学年の学生においても、就職資料を閲覧しやすい環境にし、学科長や先輩の講演などを行って就職への意識を高めた。また、キャリア教育の実施にあたり、キャリア教育支援室と連携した。</p>	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	<学寮の運営や寮生指導・支援>	<学寮の運営や寮生指導・支援>			
	学寮運営・寮生指導への寮生の自主的な参加を促進するため、以下の施策を行う。	学寮運営・寮生指導への寮生の自主的な参加を促進するため、以下の施策を行った。		【寮務主事室】	
	①寮生会を中心として、3年生以下の寮生にも役職や係を割り当て、学寮運営の仕事を早期より経験させることにより、責任感およびリーダーシップを養う。	①3年生以上は、寮生会役員や各種委員会など、基本的に希望者に役職や係を寮生会主体で割り当て、学寮運営、下級生指導に協力した。	○		
	②入寮直後の1年生への各種指導や、相互コミュニケーション促進のため、1年生に携帯電話およびスマートフォンの持ち込み禁止時期を設定する。また、2年生以上についても、学寮内での携帯電話およびスマートフォンの使用不可の時間帯を設定する。特に1、2年生の全寮制の期間内は、情報端末に捕らわれ過ぎることなく、健全な学寮生活を送ることができるよう支援を行う。	②1年生は、計画通り、入寮後から連休明けの5月5日まで携帯電話・スマートフォンの寮内持ち込みを禁止した。また、1年生及び2年生(全寮制の期間)は、夜間は携帯ロッカーに保管させ、学寮内での携帯電話およびスマートフォンの使用可能時間を制限した。全寮制の期間内は、情報端末に捕らわれ過ぎることなく、健全な学寮生活を送ることができるよう支援を行い、結果として先輩・後輩・友人関係を良好に築かせることができた。	○		
	③N棟、A棟は、寮生会役員の配置の観点から、1、2年生を階ごとに分ける。また各階に階長として、3、4年生を配して、上級生が下級生を指導する仕組みを整える。階ごとに、学習に取り組みやすい環境を整備し、21～23時の「静肅時間帯」を学習時間として有効に活用する。	③N棟及びA棟は、1、2年生を階ごとに分けて部屋割を行い、各階に階長として3、4年生を配置して、上級生が下級生を指導する仕組みを整えた。階ごとに、学習に取り組みやすい環境を整備し、21時～23時の「静肅時間帯」を学習時間として有効に活用できた。	○		
	④寮生会が提案した各種係を機能させ、寮生主体の取り組みを促進させる。その一環として、生活に密着したゴミ袋の配布や部屋の清掃など、寮生自身で管理・運営できるものは寮生で行えるように指導する。	④寮生会が提案・組織した各種係(委員会)が機能し、ゴミ袋の配布や寮内美化、低学年の学習指導など、自主的に活動することができた。これら寮生自身での取り組みにより、教員の業務の一部が軽減された。	○		
	<図書館の充実>	<図書館の充実>			
【図書館】	図書館の方針は、「図書館を多面的に充実させる」であり、本年度も26年度からの年度計画を推し進める。	図書館の方針である「図書館を多面的に充実させる」を達成するために以下のことを実施した。		【図書館】	
①利用者のニーズを把握し、計画的な図書の入替を行い、蔵書を充実させる。	①常に学生のニーズを把握する手段として、リクエストカードとともに、Gmailの活用を推進し、図書館オリエンテーションを利用し学生のGmail登録者を増加させる。	①新入生には図書館のオリエンテーションで、Gmail登録のガイダンスを行っており、年々Gmailを活用した購入希望図書のリクエストも増加している。また、図書係からのお知らせ等にもGmailは有効活用されている。	○		
②図書館内の環境整備に取り組み、利用者のサービスと利便性の向上を図る。	②全クラスから選出された学生選書委員によるインターネットを利用した選書イベントを継続実施する。	②例年同様、インターネットを利用した選書イベントを実施。各クラスから選出された学生選書委員38名により644冊の書籍が選書され購入。また、本年度は長崎の大学図書館を盛り上げるためのキャンペーン「Library Lovers' Nagasaki」に参加し、期間中は図書館の利用者も増加し好評であった。	○		
③図書館ホームページ等の充実を図り、効率的な情報発信を行う。	③書庫の狭隘化解消として除籍作業を推進し、教職員対象のリユースを推進する。	③除籍リストを作成し、教職員から希望のあった書籍に関してはリユースを継続、また、本年度はビデオのリユースも実施した。除籍作業については、6月と11月に総務課職員の協力のもと、製本雑誌を中心に約4,000冊の除籍を行った。	○		
	④図書館だより(旧図書館報)を広報誌「沖新通信」と図書館ホームページに継続掲載、また機関リポジトリを構築・公開(予定)し、学内外への効率的な情報発信を行う。	④図書館だよりは広報誌「沖新通信」に継続掲載し、図書館ホームページにも掲載した。また機関リポジトリを構築・公開(現在は研究報告のみ公開)し、学内外への情報発信が行えるようになった。	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
(6)教育環境の整備・活用	(6)教育環境の整備・活用	(6)教育環境の整備・活用			
	<施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)>	<施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)>			
【教育環境の整備】 中長期にわたって計画している学内の環境整備計画(キャンパスマスタープランなど)をベースとして、さまざまな分野の分野の予算を申請することで、充実を図っていく。	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づいて、学生支援施設の整備、図書館の整備、健康科学スポーツセンター(仮称)及び学生寄宿舎の整備を計画するとともに老朽化した教育研究施設の整備を最優先課題とした継続的な予算申請を実施する。	①昨年度制定した佐世保高専キャンパスマスタープラン2015に基づいて、学生支援施設の整備、図書館の整備、健康科学スポーツセンター(仮称)及び学生寄宿舎の整備を計画するとともに老朽化した教育研究施設の整備を最優先課題とした継続的な計画を行い、引き続き概算要求に向けて整備計画を行っている。	○	【施設整備委員会】	
	②施設マネジメント等の充実を図り、施設の実態調査やエネルギーの使用状況等の調査を行い公表し、節電意識の啓蒙に努める。また、照明器具等をLED照明へ年次計画に基づき更新整備していく。	②施設マネジメント等の充実を図り、施設の実態調査やエネルギーの使用状況等の調査を行い公表し、節電意識の啓蒙に努めた。また、照明器具等をLED照明へ年次計画に基づき更新整備する取組について、本年度は、守衛室屋外照明装置をLED照明へ更新した。	○		
	③改修整備する予定の建物については、整備に併せて、照明設備や空調設備など省エネ化の取組を実施する。	③改修整備する予定の建物については、整備に併せて、照明設備や空調設備など省エネ化の取組を実施した。本年度の営繕要求において校舎地区のガス空調設備の更新を3年計画で行うよう要求を行った。	○		
	<施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)>	<施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)>			
	①施設の定期点検を実施し、利用者の安全確保を図る。	①施設の定期点検を実施し、利用者の安全確保を図っている。	○	【施設整備委員会】	
	②温室効果ガス削減目標に沿った省エネ対策として本年度は、学寮地区浴室の給湯設備を重油からヒートポンプ式給湯器に切り替えることにより温室効果ガスの削減に取り組む。	②温室効果ガス削減目標に沿った省エネ対策として2カ年計画で学寮地区浴室の給湯設備を重油からヒートポンプ式給湯器に切り替えを行い、温室効果ガスの削減が図られた。	○		
	③Web上で建物ごとの電力量を閲覧できるようにすることにより事務室、研究室等における退室時の消灯への取組を実施するなど不要な電力使用を抑える。	③Web上で建物ごとの電力量を閲覧できるようにすることにより事務室、研究室等における退室時の消灯への取組を実施するなど不要な電力使用を抑えるようにし、本年度はデマンド値を抑え年間約100万円の削減が見込まれる。	○		
	④キャンパスマスタープランのサイン計画に基づき整備し、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の整備を年次計画的に推進する。	④キャンパスマスタープランのサイン計画に基づき整備し、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の整備を年次計画的に推進した。本年度は管理棟の各室の室名札をユニバーサルデザインに基づいて制作した。	○		
	<アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画>	<アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画>			
	①アクティブラーニングを「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」とした上で、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろん「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、知識・技能を定着させる上で、情報セキュリティ人材育成事業に伴う学習環境の充実を図るために必要な施設整備を行う。	①アクティブラーニングを「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」とした上で、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろん「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、知識・技能を定着させる上で、情報セキュリティ人材育成事業に伴う学習環境の充実を図るために本年度は情報セキュリティ演習室を整備した。	○	【施設整備委員会】	
	<環境配慮への取組計画> <PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画>	<環境配慮への取組計画> <PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画>			
	①PCB廃棄物については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等に基づき、低濃度PCB(変圧器・コンデンサ)については適切な保管に努めるとともに、予算措置がされ次第、計画的に処理を実施する。	①PCB廃棄物については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等に基づき、低濃度PCB(変圧器・コンデンサ)については適切な保管に努めるとともに、予算措置がされ次第、計画的に処理を実施する。運搬費、処分費の見積もりを算出し本部へ報告を行った。	○	【総務課施設係】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	①学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会に参加する。	①新入生及び新任教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付した。また、学生実験・実習の技術指導を行う技術職員を対象に、労働安全衛生法上受講義務がある講習会の受講並びに実習の事故防止及び技術向上のために必要な国家資格取得に係る費用を今年度から助成することとし、今年度は「技能士(機械加工 普通旋盤作業2級)」、「技能士(機械加工 フライス盤作業2級)」「第三種 電気主任技術者」等の資格取得に係る費用の助成を行った。	○	【学生課・総務課】	
	<男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画>	<男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画>			
	①男女共同参画推進委員会を中心に、男女共同参画に関する情報を適切に提供し、高専機構や文科省などで行われている介護支援、子育て支援の紹介を行う。	①男女共同参画推進委員会を中心に、男女共同参画に関する情報を適切に提供し、高専機構や文科省などで行われている介護支援、子育て支援の紹介を行った。	○	【男女共同参画推進委員会】	
	②男女共同参画に関する意識啓蒙としてワーク・ライフ・バランスを推進するため、研究支援員の任用を積極的に広報、申請し、就学前の子を持つ教員の負担軽減等を図る。	②男女共同参画に関する意識啓蒙としてワーク・ライフ・バランスを推進するため、研究支援員の任用を積極的に広報し、就学前の子を持つ教員1名から申請があり、採択を受け教員の負担軽減等を図った。	○		
	<技術室>	<技術室>			
	技術室の専門性と個人の能力向上を目指し、実験実習の支援及び学内の技術支援の更なる充実を図るため、本年度は以下の施策を行う。	目標とした施策について、実施結果と課題を以下に示す。		【技術室】	
	①各種研修会等へ積極的に参加し、技術職員の技術力向上と技術的な交流を図る。学内においても実験実習の安全性をより高めるために今年度も安全講習会を実施する。また、技術室の職員研修を学校内外で実施する。更に、技術職員の技術力向上と実習の安全性を高めるために、各種資格試験等の受験を推進する。	①外部の技術研修会へ延べ5人参加した。企業視察研修を6月に実施した。外部講師に依頼して、工作機械操作の講習会を学内で開催し、複数の職員が必要な資格試験に向けた研修を受け、試験合格に結びつけた。また、資格取得等を支援するためのルール作りに取り組み、総務課の協力を得て成文化した。更に、三機関連携グローバルSDに職員1名を参加させ、技術室全員のモチベーションを向上させる効果を得た。2月に化学系の学内研修を実施し、12名が専門外の技術を学んだ。	○		
	②社会貢献活動を地域共同テクノセンター、企画係と連携して実施する。	②企画係と連携してこれまで30件の出前実験・授業を実施することにより社会貢献ができた。	○		
	③技術室の活動情報を技術室ホームページに掲載する。	③技術室の活動情報を逐次技術室ホームページに掲載した。	○		
2 研究に関する事項	2 研究に関する事項	2 研究に関する事項			
	<外部資金獲得への取組計画>	<外部資金獲得への取組計画>			
【研究の推進】 ・教員自らの創造性を高め研究活動を活性化させるために、学内公募での融合研究を推進するとともに、学内外の研究グループへの積極的な参加を促す。	①研究を進展させ外部資金獲得に資するため、学会発表や学術雑誌への投稿を奨励するとともに、全国高専フォーラム、イノベーションジャパン等のマッチングイベントへの出展参加を奨励する。	①研究の促進および進展、外部資金獲得への取り組みの一環として、全国高専フォーラムへ出展参加した。また、環境ビジネスマッチングイベントである「2016NEW環境展」に出展参加し、新たな共同研究の相手先の開拓等を図った。	○	【地域共同テクノセンター】	
	<産学連携についての取組計画>	<産学連携についての取組計画>			
【地域との共同研究】 ・地(知)の拠点となるべく、地域共同テクノセンターを活用し、地域産業界と密接に関与する取り組みを行い、共同研究や受託研究への活動へと繋げる。	①地域共同テクノセンター所属の産学官連携コーディネーター等を活用し、新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。また、長崎県産業振興財団、西九州テクノコンソーシアム等の産学官連携組織と連携し、技術マッチングを図るとともに、技術相談会等を通して地域産業界との連携を推進する。	①産学官連携コーディネーターを活用し、技術相談会(定期)を実施し、共同研究・受託研究の受入れの促進を図った。マッチングプランナープログラム(科学技術振興機構)へ応募し採択(2件)へ繋げた。また、長崎県産業振興財団、西九州テクノコンソーシアムと連携し、技術マッチングを図り、地域産業界との連携を継続実施している。佐世保市中小企業新製品開発促進事業による共同研究も行っている。	○	【地域共同テクノセンター】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	<p style="text-align: center;">＜地域共同テクノセンター等の活用計画＞</p> <p>①企業からの技術相談および企業との共同研究、産学連携組織との共同事業などを通して、地域産業界との連携推進のための運営中枢として、地域共同テクノセンター設備および研究機器等の活用を図る。</p>	<p style="text-align: center;">＜地域共同テクノセンター等の活用計画＞</p> <p>①企業からの技術相談、企業との共同研究、産学連携組織との共同事業を実施し、長崎県北部地域における研究開発の中核として、地域共同テクノセンター設備および研究機器等の活用を進めている。</p>	○	【地域共同テクノセンター】	
	<p style="text-align: center;">＜知財管理についての取組計画＞</p> <p>①知的財産に関する制度及び手続きに関する知識等を向上させるため講習会や情報交換会等に職員を積極的に派遣する。</p>	<p style="text-align: center;">＜知財管理についての取組計画＞</p> <p>①知的財産に関する制度及び手続きに関する知識等を向上させるため、日本弁理士会(九州支部)との情報交換会に教員1名及び産学官連携コーディネーター1名を派遣している。</p>	○	【地域共同テクノセンター】	
	<p>②協定を締結している日本弁理士会(九州支部)と情報交換を行うなど連携を推進する。</p>	<p>②第5ブロックと日本弁理士会(九州支部)の連携による情報交換会(於:沖縄高専)に参加し、連携を推進した。</p>	○		
	<p style="text-align: center;">＜広報体制についての取組計画＞</p> <p>①産学官連携コーディネーターを活用し、技術シーズを地域社会へ引き続き紹介していく。</p>	<p style="text-align: center;">＜広報体制についての取組計画＞</p> <p>①技術シーズ集(平成28年度版)を発刊するとともに、産学官連携コーディネーターを活用し、技術シーズを地域社会へ紹介している。また、第2回産学官金連携サロンにおいて教員の研究紹介も実施している。</p>	○	【地域共同テクノセンター】	
	<p>②研究報告、技術シーズ集、国立高専研究情報ポータル等を通じて、外部へ情報公開・情報発信を行う。</p>	<p>②研究発表、研究論文、研究報告、技術シーズ集、国立高専研究情報ポータル等を通じて、外部へ情報公開・情報発信を推進している。</p>	○		
3. 社会との連携	3. 社会との連携	3. 社会との連携			
	<p style="text-align: center;">＜小中学校と連携した理科教育支援への取組計画＞</p> <p>①公開講座及びアンケート調査を引き続き行い、この結果を基に必要に応じて改善を行うなど、高い満足度の維持に努める。</p>	<p style="text-align: center;">＜小中学校と連携した理科教育支援への取組計画＞</p> <p>①公開講座(8件)を実施し、アンケート調査を行った結果、いずれの講座も満足度の高い評価を得た。</p>	○	【地域共同テクノセンター(校長補佐(地域連携))】	
	<p style="text-align: center;">＜地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)＞</p> <p>①地域技術者へ再学習の機会を提供するため、西九州テクノコンソーシアム、長崎県産業振興財団、佐世保市と連携し、社会人向けの技術講習会を開催する。</p>	<p style="text-align: center;">＜地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)＞</p> <p>①地域技術者へ学習機会の提供事業として、今年度は西九州テクノコンソーシアムと連携し、水素エネルギー開発に係る勉強会を実施している。</p>	○	【地域共同テクノセンター】	
	<p>②企業説明会を継続し、企業紹介を通して、就職先開拓、インターンシップ、共同研究等、本校学生及び教職員と連携を深める。</p>	<p>②今年度は、学生教育およびインターンシップ、共同研究等の深化を目的に「地域企業技術セミナー」を実施した。企業の主要技術紹介を通して、本校学生及び教職員と連携を深めた。</p>	○		
4. 国際交流等に関する事項	4. 国際交流等に関する事項	4. 国際交流等に関する事項			
	<p style="text-align: center;">＜学生の海外派遣計画＞</p> <p>①4年生の海外工場見学として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・物質工学科の全学生をシンガポールや台湾等へ派遣する。</p>	<p style="text-align: center;">＜学生の海外派遣計画＞</p> <p>①4年生の海外工場見学等として、機械工学科と電気電子工学科がシンガポールを、電子制御工学科と物質工学科が台湾をそれぞれ1週間の見学を9月に実施した。全学科が無事有効な海外の研修を実施できた。</p>	○	【学術交流専門委員会】	
	<p>②学術交流協定締結校である廈門理工学院の学生を受け入れるとともに、本校専攻科生を廈門理工学院に派遣する。</p>	<p>②中国の廈門理工学院との相互交流として、7月に廈門理工学院の学生7名を受入、10月に本校の専攻科生6名を派遣した。学生同士の良い相互交流が実施できた。</p>	○		

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
	③相互訪問を実施しているシンガポールポリテクニクの学生を受け入れるとともに、本校学生を派遣する。	③シンガポールポリテクニクの学生12名が6月に本校に來校し、1週間の交流を実施するとともに、10月には、機械工学科と電気電子工学科の4年生が、シンガポールポリテクニクを訪問し、有効な交流を実施できた。	○		
	＜海外への留学を希望する学生の支援への取組計画＞	＜海外への留学を希望する学生の支援への取組計画＞			
	①学内で協力し、佐世保の特徴であるアメリカンスクール等との英語教育のための交流を継続して行い、グローバルエンジニアの養成に努力する。	①学内で協力し、佐世保の特徴である米軍基地内小学校(30名程度受け入れ)など、アメリカンスクールとの理科系の専門用語を用いた英語交流を継続・発展して行い、グローバルエンジニアの養成に努力した。	○	【教務主事室、各学科】	
	②9高専連携事業などの海外への長期・短期留学プログラムの情報を周知する方策を検討し、留学の促進に繋げる。	②9高専連携事業などの海外への長期・短期留学プログラムの情報を周知するよう努め、留学の促進に繋げた。その結果、8/13～8/29にシンガポールで英語キャンプを1名、9/1～9/10に香港でテクニカルチャレンジプログラムを1名、9/5～9/15にベトナムのハノイ大学で英語研修を1名、12/19～12/23には同じくベトナムのハノイ大学で交流事業および研究交流を3名が行った。	○		
	③廈門理工学院、シンガポールポリテクとの交流活動を継続し、両校学生・教員の相互交流及び本校学生の海外インターンシップ、海外工場見学など交流事業の推進を図る。	③廈門理工学院との相互交流事業は継続して実施されており、専攻科2年生の6名が廈門へ派遣され、交流事業を行った。同時に7月には廈門理工学院からの受け入れ7名、6月には短期間でシンガポールポリテクからの受け入れ13名を行っており、両校学生・教員の相互交流及び本校学生の海外インターンシップ、海外工場見学など交流事業の推進を図った。	○		
	＜留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)＞	＜留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)＞			
	①高専機構主催の留学生・国際交流担当教員研究会等の会議や研修会に参加し、留学生交流・国際化等について引き続き検討する。また、長崎県内の産学官連携による長崎留学生支援センターを活用し、留学生の支援を図る。	①高専機構主催の留学生・国際交流担当教員研究会等の会議や研修会に参加し、留学生交流・国際化等について引き続き検討した。また、長崎県内の産学官連携による長崎留学生支援センターを活用し、留学生の支援を図った。	○	【教務主事室】	
	②留学生チュータ制度により、留学生の教育支援、生活支援の向上を図る。	②留学生チュータ制度により、引き続き留学生の教育支援、生活支援の向上を図った。	○		
	③留学生の交流研修会や日本文化研修会等への積極的な参加を推進し、また、日本文化体験等を行う。	③留学生の交流研修会や日本文化研修会等への積極的な参加を推進し、また、日本文化体験等として今年度は書道を実施した。	○		
	①留学生委員会の議を経て、正月やお盆の完全閉寮期間中に留学生等が寮内で生活できる特別室としてのN棟:静養室の利用システムを整える。	①留学生委員会の議を経て、正月やお盆の完全閉寮期間中に留学生等が寮内で生活できる特別室としてのN棟:静養室の利用システムを整え、完全閉寮期間中の「学寮への特別滞在」として運用できるようにした。	○	【寮務主事室】	
	②継続して、留学生の教育・生活支援のため、備品の更新等により、留学生交流室や補食室等の充実を図る。	②留学生の食事に関する環境改善のため、留学生補食室の備品の更新等を随時行った。	○		
	＜外国人留学生に対する研修の実施計画＞	＜外国人留学生に対する研修の実施計画＞			
	①本校が担当校として、九州沖縄地区留学生交流研修会を企画し実施する。	①本校が担当校として、九州沖縄地区留学生交流研修会を実施した。各高専から留学生54名、本校教職員7名及び鹿児島高専(次期担当校)教職員2名の参加があった。(10/15-16)	○	【学生課】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
5 管理運営に関する事項	5 管理運営に関する事項	5 管理運営に関する事項			
	<p><危機管理への対応></p> <p>①リスク管理室を常設するとともに、緊急時には必要に応じて危機対策本部を設置する。</p>	<p><危機管理への対応></p> <p>①リスク管理室を常設し、緊急時には必要に応じて危機対策本部を設置することとしている。なお、平成29年1月から、大規模地震などの自然災害発生時における教職員の安否確認を行う手段として、携帯電話等のメール機能を活用した安否確認システムの運用を開始した。</p>	○	【総務課総務系】	
	<p><資産の有効活用方策.IT資産の管理></p> <p>①N棟に設置されている外部委託の宿直者が使用できる「仮眠室」を有効利用し、外部委託と教員宿直を併用した当直体制の試行を継続して実施する。学寮管理の一部アウトソーシング化とセキュリティ強化について、継続して検討を行う。</p>	<p><資産の有効活用方策.IT資産の管理></p> <p>①外部委託の宿直者が使用できる仮眠室とモニター室を活用して、実際に外部委託の宿直者1名と教員宿直者1名の併用による試行を、5月のゴールデンウィークから2月の中旬までの間、67泊実施した。学寮管理の一部アウトソーシング化に加え、消灯後の学寮内外の巡回が行われるなど、セキュリティ強化に繋がった。</p>	○	【寮務主事室】	
	<p>①IT資産管理システムに基づく高専機構からの調査を活用して、教職員のソフトウェアの不正インストールの防止並びに情報セキュリティに対する意識向上を図る。</p>	<p>①高専機構におけるIT資産管理システムの移行に伴い、12月に実施された情報担当者研修会のIT資産管理システムの操作・管理についての研修に教職員4名が参加し、システムの操作を習得した。機構本部のソフトウェア調査を通して教職員のソフトウェアの不正インストールの防止並びに情報セキュリティに対する意識向上を図った。また、高専機構が実施する教職員を対象とする情報セキュリティ教育eラーニングでは全教職員が受講を完了した。</p>	○	【情報サービス係】	
	<p><教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画></p> <p>①コンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。</p>	<p><教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画></p> <p>①コンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して教職員対象の調査を実施し、意識向上を図った。</p>	○	【総務課総務系】	
	<p><校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応></p> <p>①引き続き高専間の相互監査を実施し、不正使用の有無を相互にチェックする。その際、業者から売上台帳等を提出してもらい、期ずれや付け替え、預け金等について、詳細な調査を行う。</p>	<p><校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応></p> <p>①11月に久留米高専職員が本校を、本校職員が久留米高専を訪問し、高専間の相互監査を実施し、不正使用の有無を相互にチェックした。その際、業者から売上台帳等の提出を受け、期ずれや付け替え、預け金等について、詳細な調査を行った。指摘事項は無く、引き続き適正な経理を実行する。</p>	○	【総務課経理係】	
	<p>②本校独自で定期監査を実施し、監査事項を定めて調査を実施するとともに前年度作成した内部監査マニュアルを随時見直し、校内の監査体制の充実を図る。</p>	<p>②本校独自で高専相互監査前の10月に定期監査を実施するとともに、前年度作成した内部監査マニュアルを見直し、校内の監査体制の充実を図った。</p>	○		
	<p><公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況について></p> <p>①公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底については、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の内容を踏まえ、全教職員に対して実施している公的研究費にかかる学内説明会について、アンケート結果等に基づき内容等を検証・改善し教職員の意識涵養に資するとともに、各種監査等の結果も踏まえ、公的研究費のガイドラインで求められている体制等について、継続して整備・改善を行う。</p>	<p><公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況について></p> <p>①「公的資金の使用手続き及び管理マニュアル」をデスクネット上に保存し、全教職員がいつでもアクセスできるようにしている。また、採用や異動で本校に新たに勤務することとなった者には、印刷したものを配付し、周知を行っている。9月には全教職員を対象とした不正使用の再発防止の説明会を開催し、説明会内容についてのアンケートを実施するなど、一層の周知徹底を図るとともに、アンケートの結果等を踏まえ継続的な改善を実施した。</p>	○	【経理係、企画係】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価 結果	担当部署	評価理由
	<p><職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む)></p> <p>①職員の専門的な能力の向上を図るため、継続して高専機構や外部機関が実施する研修に積極的に参加させる。</p> <p>②職務に関連して、高く評価ができる成果が認められる職員については、高専機構が実施する職員表彰に対して積極的に申請するよう働きかける。</p> <p>③国際交流に対する意識の涵養のために事務職員を対象とした語学研修を実施する。</p>	<p><職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む)></p> <p>①今年度も平成28年度国立高等専門学校職員海外研修の参加等、高専機構や外部機関が実施する研修の照会があれば積極的に参加させ、能力向上を図るとともに、報告会を開催し、他の職員に還元した。</p> <p>②該当する職員がいれば、職員表彰に対して積極的に申請するよう働きかけている。なお、今回は高専機構表彰の一般部門、若手部門それぞれ1名推薦を行った。</p> <p>③前年度に引き続き、今年度も事務職員2名に対して語学研修を実施し、留学生の対応の円滑化等、国際交流に対する意識の涵養を図った。</p>	○	【総務課人事係】	
	<p><人事交流計画></p> <p>①例年機構本部より照会がある他機関への異動希望調査を活用するとともに、従来より実施している長崎大学との人事交流を継続して促進する。</p>	<p><人事交流計画></p> <p>①今年度機構本部より照会があった他機関への異動希望調査を活用したが、今回は該当者はいなかった。また、長崎大学との人事交流では、事務職員2名の大学復帰と新たに2名の受入れを行い、人事交流の促進を図った。</p>	○	【総務課人事係】	
	<p><情報セキュリティ対策></p> <p>①セキュリティの啓蒙活動として、教職員及び学生対象に講演会の開催、マニュアル等の有効活用を図る。</p> <p>②平成30年度稼働の次期ネットワークシステム導入時に時代に対応したセキュリティシステムとなるように、適宜見直す。</p> <p>③セキュリティ啓蒙活動のための機構指導のe-Learning等を利用する研修を実施・計画する。</p>	<p><情報セキュリティ対策></p> <p>①情報セキュリティの啓蒙活動として、次のことを実施した。 ・低学年講演会「情報モラル講習会」4/27(水) (講師)長崎県警本部生活安全部生活環境課サイバー犯罪対策係主任 他2名。 (対象者)1年生～3年生、教職員21名 ・10月教員会議で、情報セキュリティ対策について全教員に依頼。 ・長崎県警情報モラル講習会(教職員対象)12/9 ・本科2年生学年集会において情報セキュリティについて講話。 12/14 ・教職員向けFD講演会 演題:「九州大学におけるサイバーセキュリティ基礎教育と演習の紹介」(講師:九州大学サイバーセキュリティセンター長)2/24</p> <p>②次期ネットワーク導入後にファイアーウォールによるセキュリティを確実にするために、Eduroamの配線ルートを変更する計画を作成した。</p> <p>③高専機構主催の全教職員を対象とした情報セキュリティ教育(e-Learning)について、徹底した協力依頼を行った結果、全教職員の受講が完了した。</p>	○	【情報処理センター】	
	<p><機構の中期計画および年度計画を踏まえた本校の年度計画の策定></p> <p>①機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を策定するとともに年度計画の達成状況を自己点検・評価する。</p>	<p><機構の中期計画および年度計画を踏まえた本校の年度計画の策定></p> <p>①高専機構の中期計画及び平成28年度年度計画を踏まえ、本校の平成28年度年度計画を策定した。また、年度計画期間終了後は、年度計画の達成状況について、各部署から提出された実績報告書を基に、教育システム点検・改善委員会及び自己点検・評価委員会において自己点検・評価を行い、結果をホームページで公表する。</p>	○	【総務課総務系】	

平成28年度 年度計画 自己点検報告書

※「平成28年度実施内容」欄は、担当部署において今年度の取り組み実績及び内容を記入する。
「評価」欄は自己点検・評価委員会において評価結果を○、×、△で記入する。

H29.5.23 自己点検・評価委員会 決定

中期計画(平成26年度～平成30年度)	平成28年度年度計画	平成28年度実施内容	評価結果	担当部署	評価理由
6 広報活動に関する措置	6 広報活動に関する措置	6 広報活動に関する措置			
	学校教育法施行規則第172条の2に基づき、本校の教育研究活動を広く社会に公表するため、以下の活動を行う。さらに、優秀な学生を確保するために、広報担当校長補佐のもと広報委員会の活動を充実する。	学校教育法施行規則第172条の2に基づき、本校の教育研究活動を広く社会に公表するため、以下の活動を行った。		【広報委員会】	
	①本校公式ホームページについて、新入生を対象にアンケートを実施し、その改善を図る。	①1年生対象のアンケートを実施し、要望のあった学科のホームページの改善に取り組むとともに、ホームページソフトのバージョンが古く情報インシデント上問題があったため、最新のバージョンに更新した。	○		
	②公開講座、一日体験入学、おもしろ実験大公開等のイベント開催情報を、中学校訪問時及びタウン誌、新聞社などの報道機関に積極的に発信するとともに、ポスターやチラシを市内各所及びスクールバス等に掲示、配布する。	②スクールバスに掲示するイベント、入試情報を新しく更新して掲示した。一日体験入学の情報は、長崎県と佐賀県の全中学校を訪問してポスター・チラシを配布した。おもしろ実験大公開のポスターやチラシも多くの小中学校に配布した。その結果、多くの参加者(1,613名)を得ることができた。	○		
	③地域共同テクノセンターと連携し、出前実験・授業などの地域交流活動を年間40件以上実施する。	③今年度の出前授業・実験は、教員や技術職員の協力もあって、41件と目標をクリアできた。	○		
	④保護者向けの広報誌「沖新通信」を年2回発行し、保護者への教育の情報提供を行う。	④広報誌「沖新通信」を、7月に第1回、3月に第2回を発行し、全保護者に配布して、本校の教育活動の情報と成果の情報提供を行った。	○		
	⑤学校要覧や学校紹介パンフレットを作成し、より多くの外部の方々に配布して学校のPRを行う。	⑤学校要覧は、表紙や内容を一新して作成し、大事な学校紹介資料として外部の方々に配布活用した。また、主に中学生や企業向けのパンフレットもそれぞれ作成して、学校PRに活用した。	○		
	⑥50周年記念館「八角堂」を、より有効な広報宣伝の場となるように整備を検討する。	⑥記念館に設置しているパソコンによる学校紹介等の中で、学校紹介ビデオと卒業アルバムデータの更新を行った。また、現有パネルの更新や新しく研究紹介のパネルの作成について、次年度実施に向けた計画を行った。	○		
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置			
	<一般管理費の縮減取組計画>	<一般管理費の縮減取組計画>			
	①引き続き、随意契約における見積競争を、原則1件当たり契約金額30万円以上の案件について実施する。	①1件当たり契約金額30万円以上の随意契約は、見積競争を行っている。	○	【総務課財務系】	
	②一般管理業務の契約を全体的に見直しコスト削減を図る。	②定期刊行物、追録等の購読についての見直しにより約95万円、複合機、印刷機の見直しにより約67万円のコスト削減を図った。	○		
	<随意契約の見直し状況>	<随意契約の見直し状況>			
	①随意契約で締結している年間契約について、複数年契約への移行を検討し事務効率化を進めるとともに、予定金額によっては一般競争契約へ移行する。	①警備業務の一般競争契約において、別途随意契約を仕様に取り込むとともに複数年契約へ移行した。その他の随意契約の年間契約についても複数年契約への移行を実施し、事務効率化を進めた。	○	【総務課財務系】	